

平成 27 年 9 月に本学通信教育部を卒業された方 88 名を対象にアンケート調査を実施しました（回答者 60 名）。今回は実習・国家試験対策を中心にアンケート結果をご紹介します。今後の通信教育部での学習にご活用いただけたらと思います。

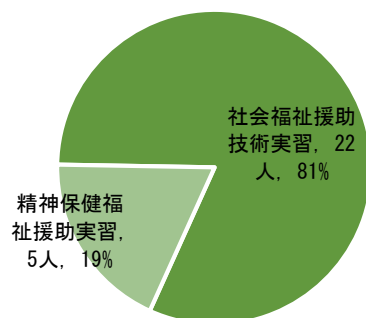
1 国試・教員採用試験の受験勉強についてお聞きます。

受験勉強の内容

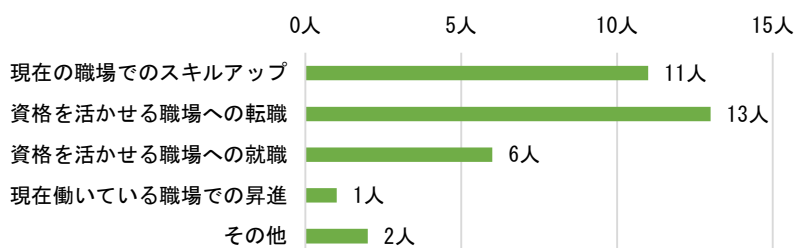
- ・参考書の購入、PC ネットでの問題を解く過去の国試問題。
- ・過去問題を中心に参考書をみながら復習。
- ・過去問を解き、解答を分析する。
- ・過去問とその解説を読みながら、それぞれの用語や関係事項を教科書、辞書等で確認し、理解を深めている。
- ・大学の模擬小テストで問題に慣れている段階。
- ・受験対策講座の復習、過去問を学習する際に解説だけではなく、理解のあまい分野を手までも教科書から学び直している。

1 実習について

1) 行った実習種別



2) 実習を行った目的



3) 実習で苦労したこと

- ・実習先の内容すべてを理解するまでに時間がかかった時間とのたたかいです。
- ・体調管理です。
- ・毎日日誌を書くこと。
- ・利用者との信頼関係の築き方。

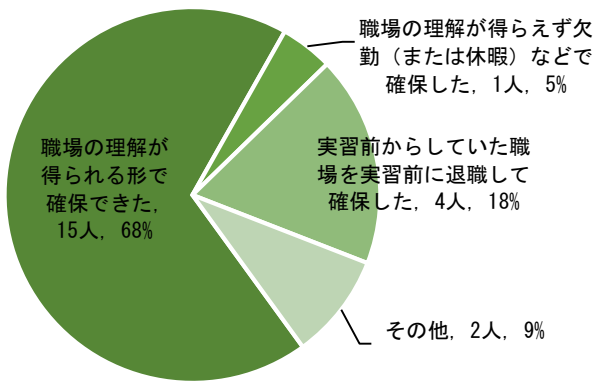
4) 克服・対処した方法

- ・受容、非営利的態度、統制された情緒的関与、個別性、傾聴、共感的態度、コミュニケーション力。
- ・ボランティアを一か月前に行っていたので、指導者の方が励ましてくれた。
- ・自己覚知の重要性を指導からのアドバイスでいただいた。
- ・自分で課題を見つけること。教科書を読み、専門技術を実践する。
- ・指導者の態度や話し方など気づいたことは全てメモをとるようにして休みの日に整理した。

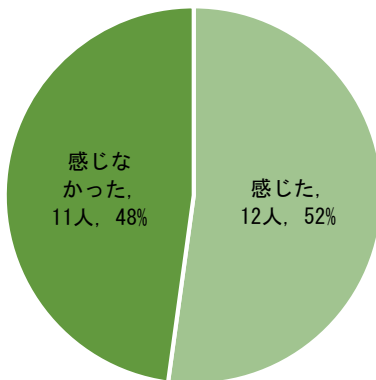
5) どうすれば対処・回避できたと思われますか

- ・常に積極的な姿勢で取り組むこと。
- ・事前のボランティアをもっと多くさせていただくことで、初期に得られる情報を増やしたりすれば良かったかもしれない。
- ・実習ノートの書き方を学習しておくよかった。
- ・巡回指導の先生に相談した。とにかくこれまで頑張ってきたのだから、自分の気持ちを強く持ち、ぶれない気持ちが必要。
- ・一人の利用者にたいする情報を収集することの大切さを学んだ。また、積極的に利用者とかかわること。コミュニケーション技術。

6) 実習期間の休暇はどのように確保されましたか



7) 事前学習の準備不足を感じたことはありましたか



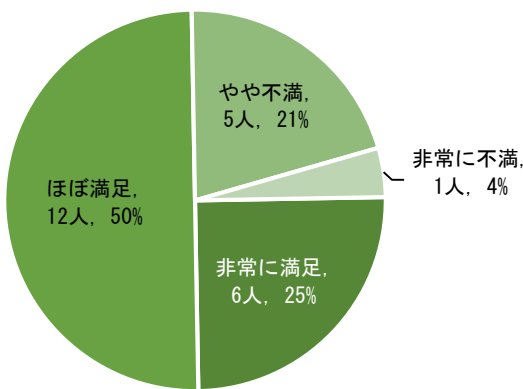
8) 事前学習の準備不足について具体的な内容

- ・とにかく実感を得ていない事(体験学習が免除だったため)教科上での文章を重ねていたと今思います。
- ・それなりに学習していたが、基本的なこと(課題ノート等)をもっと学んでおくよかった。
- ・自分の専門分野外の実習だったので、サービス管理責任者や請求事務等の学習もするべきだったと感じている。
- ・事前学習ノートについても十分すべてを理解することができず実習に入ってしまった。せめてノートについては早い段階から準備を進めて完成した形で実習に入った方が良かったと思った。

9) 実習前に不安だったことを教えてください

- ・実習先の環境に早く慣れるか不安だった積極的に利用者とコミュニケーションがとれるか不安だった。
- ・家族に小さい子どもがいるため、体調不良等を起こすのではないかと不安であった。
- ・文章を書くことが苦手なので実習記録が不安だった。
- ・特養で高齢者福祉に携わった経験はあるが、対人援助におけるスキルに自信がなくなっていた。しかも実習先は障害福祉サービス事業所のため、障害を持つ人と接したことがほとんどなかったことに対する不安が大きかった。
- ・夏場の暑い時期でしたので、24日間体調を崩すことがないか、また利用者さん達に受け入れてもらえるのだろうか、職員の方々とうまくやっていけるのか等、不安が一杯でした。

10) 実習先の指導内容や実習プログラムについて満足できましたか

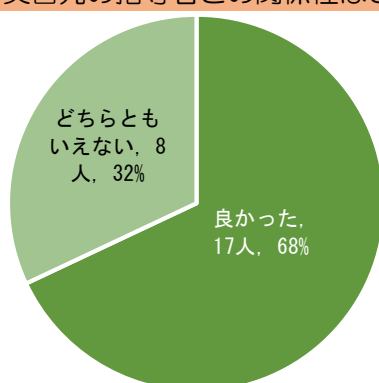


11) 実習先の指導内容や実習プログラムについての具体的な内容

- ・常に根拠に基づいて説明していただけたので、とても理解しやすかったです。また、実習先の職員さんの利用者に対する姿勢がとても素晴らしく、「自分もこうなりたい」という理想的な姿を自分の目に焼き付けてくることができました。実習プログラムに合わせて、毎日の実習が課題を意識しながら取り組める内容になっていました。系統だてて学ぶことができました。
- ・職種実習と職場実習はできても、ソーシャルワーク実習はできないように思えた。実習先が利用者本人と職員の関わりだけで現実に日中の支援だけで利用者の生活に介入することが難しい。実習先の責任者（所長）がソーシャルワーク実習を理解されていないようで、現場実習、作業実習ということを頻繁に言っていた。ソーシャルワーク実習につながる実習先は、社会福祉協議会や地域包括センター等の相談が主体になっている所でないとできないのではと感じた。
- ・独立型の社会福祉士に近いと思える意識を持った相談支援専門員の方が指導してくださり、そのような方たちが働ける組織で実習できたことが良かった。
- ・実習生と私を客観的に捉えてよく理解していただけたと思います。
- ・とにかく受け身だとすぐに一日が経ってなにも得られない。自分から発信していかないと何も生まれない実習先でした。しかし、それ以上に全てが学びで、社会福祉というものを全身で感じ、教えていただいた実習先でした。これをどう生かすかはこれからの私の姿勢にあることも感じています。
- ・部署によっては指示がはっきりしないこともあり、戸惑うことも少しあった。

- ・実習受け入れが初ということで、指導者も念入りにプログラム調整してくれた内容だと思っています。
- ・事前訪問の際に提出した実習計画書に沿った形で実習プログラムを作成していただいたので、ほぼ目標を達成することができた。実習指導者以外の職員の方たちにも質問に快く応じてくださるなど、全体的に恵まれた環境で実習ができたと感じる。
- ・どことなく厳しさがありませんでした。

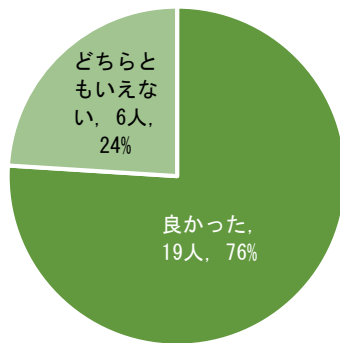
12) 実習先の指導者との関係性はどうか



13) 実習先の指導者との関係性についての具体的な内容

- ・B型事業所での作業だけではなく、関連事業所や面談、アセスメント等に同席させてもらうことも多くあり、指導者（サービス管理責任者）の業務や考え方を学ぶ機会が得られた。質問や振り返りの時間も日々設けてくださり、指導者に限らず直接支援職員の方々とのコミュニケーションも十分に図ることができた。
- ・コミュニケーションが多かったとは言えない。
- ・自分とレベルの差がありすぎて気おくれしました。
- ・お互いの福祉で働くことの意識や考えについて話すことができた。
- ・毎朝一日のスケジュールをうかがったり、実習記録の指導をいただいたり、関係性は良好でした。
- ・その時は気付かなかったのですが、前半の就労支援員、サービス管理責任者の方が寛容で時間的には指導を受ける余裕がなかったのですがリラックスできました。後半はクリニックでの実習であり、厳しく、日々考えさせられる宿題が指導者より提示されました。
- ・常に会話をもってくれ、都度アドバイスもいただけた。周りの方ともスムーズなコミュニケーションがとれるよう配慮していただけたと思う。
- ・利用者との関係性は良好であった。担当指導が多忙の時は他の職員に聞きました。
- ・実習生の自分のほうが年齢が上だったので、指導される立場として少し遠慮がちになってしまった部分があり、もっと関係を築きたかったという後悔がある。実習後指導で評価表を見たとき、私自身では実習指導者との関係性が一番築けたと感じていたが、指導者は他の職員との関係性がよかったと評価していて、自分の足りなさの実感と少し残念な思いがした。

14) 実習先の利用者（患者）との関係性はどうか



15) 実習先の利用者（患者）との関係性についての具体的な内容

- ・コミュニケーションが多かったとは言えない。
- ・毎日、自分の宝物を持って来て見せてくれる利用者の方、その日あった出来事を毎朝報告してくれる利用者の方、ハイタッチをしてくれる利用者の方等、良い関係が築け、実習を進める上で大きな支えになってもらったように感じます。仲良くなった人、べったりにならないように利用者の方全てに平等に接するように気をつけていた。
- ・皆さん、実習生を受け入れが初めてではなく、いろいろと話をしてくださいました。また、「拒絶反応を示されたらどうしよう」と不安でしたが、そのような方はいなかったので安心しました。一緒にレクリエーションに参加したり、イベントに参加（外販）したり、料理（冷やし中華の卵を焼く）をしたりと同じ時間を共有できました。
- ・ある利用者が気分を害するようなことがあった。
- ・どこのお宅へ伺っても親しく迎えてくださり、実習に協力していただくことができました。
- ・個別支援計画策定の対象者とのかわりが日常的にできた。自分が意識して接したり、会話を引き出す努力もしたが、指導者や他の職員も気にかけてくれたため、全体的に良好な関係性を持つことができたと思う。
- ・積極的に信頼関係を築く努力をしました。
- ・利用者さんが嫌な思いをするようなことがなく、接することができたので、よかったと思う。信頼関係まではいかなかったが、笑顔をかかわせるようになり、毎日があった。
- ・利用者さんとの会話の中には「こんなこと今まで誰にも言ったことなかった」という話題があがりました。利用者さんのそんな想いを口に出していただけたことがとても嬉しかったです。
- ・しっかりとあいさつ、笑顔、基本的な姿勢を心がけた。同行訪問も多くこなすことができた。

16) 実習開始前と後とであなた自身が変わったことを教えてください

- ・自分の癖を意識することができるようになりました。また、認知症の方々から多くのことを教えていただく機会となりました。高齢者の方々から学ぶこともたくさんありました。相談業務に当たる時、まず相手のお話しに静かに耳を傾けたいと考えるようになりました。
- ・自分の価値観、思い込みがあったことに気付いた。ご利用者、ご家族の立場で支援することを忘れないように心掛けている。
- ・自分の性格や生き方の傾向性を見直す、良いきっかけとなりました。少し時間にルーズなところ等座学での学びに、命が宿ったような感じができる内容だったので、これからをよく考えられました。

- ・全てがかわった。
- ・利用者に対する職員の考え方や倫理観が態度に出て、それが与える影響の大きさを実感した。自分も時折そのことを考えるようになった。
- ・障害者福祉論等で知識を得ていたものの、実際に障害者福祉施設で実習を始めると、自分が経験したことのない新たな視点を設けることができた。自分と同じ地域で生活している健常者となんら変わらないのだということを実体験できた。実習後は知的障害を持つ人を見かけても特に以前のような違和感はなくなった。
- ・物事に対する価値観の置き方がかわった。広い視野で考えられるようになった。
- ・利用者とのコミュニケーションは情報収集し関わるだけでなく「観察」し、理解を深めることも大切と知りました。
- ・利用者の声を聞くことができたので、心情が少し分かったこと。
- ・転職しました（B型事業所から児童自立支援施設へ）。
- ・実際に行ってみなければわからないことはたくさんあったので、辛かったことも多くありましたが、より福祉の現場で頑張っていこうという気持ちが大きくなりました。
- ・専門職と触れる時間が持てたので、業務に取り組む姿勢は改まったと思います。
- ・自分に足りないものが明確化された。言葉、交渉力、遠慮がちなこと。公の場で自分自身の意見を持ち、きちんと発表するべきであることを痛感する。人とのつながりを大切にしようと感じた。つながりは自分の社会資源になっていくということを実感する。
- ・自己の苦手とする部分が浮き彫りになったこと。また、実習時に気になった方は自分の内にある気になる部分であることに気付かされました（自身の親子関係）。
- ・実践することの難しさ、やりがいを変えて考えさせられた。援助、支援を必要とせざるを得ない人々への関わりを実践できるように学習を深めたい。
- ・高齢者介護の理解が深まった。
- ・実習を経験する力が大学での学びであった。また、深めることができた。
- ・地域、地元における福祉について、今まで分からなかったこと、新たな発見もあり、知識がずいぶん詰め込まれたと思う。
- ・人との向き合い方。

17) 今後実習を行う在学生へのメッセージ・本学に対してのご提案

- ・学生たちは大変な思いをしながら実習しました。どの分野に実習に行っても本当の福祉現場はこんなものなのかがっかりする部分もあります。また、逆に素晴らしいつながりができることもあります。そして利用者様の協力なくしては実習を行うことはできません。現場の今を生きている利用者様への配慮と感謝を忘れずに実習させていただき気持ちを胸に置き学んでください。
- ・福祉業界未経験者でも分かりやすい説明だとありがたいです。
- ・今できることを積み重ねていくと、ゴールにたどり着くことができます。ご自身のペースで諦めずに取り組んでみてください。健康第一です。体を労りながら学び続けてください。
- ・実習先は必ずしも希望通りにはいかない配属実習になるかもしれませんが、課題の一過程と思えば他のキャリア資格等、自分の努力でどうにでもなると思います。実習当時は「本当は～で行いたかった」という通信制の学生も見受けられましたが、目標は国試取得とその先の生涯学習であるので、実習先は縁と捉え、長い目で頑張らしましょう。

・通信教育という部分もそうだが、自主性が大変重要だと思う。受け身ではなく、間違っているけども自分で自分からやることが結果的にはそれが失敗だったとしても自分の学びとなって、ひいては、自分の宝になっていく。将来の福祉を担っていく人材となる意識を大事に積極的に取り組んでいきましょう。

・意欲を持って入学したのですが、何度も大変でくじけそうになりましたが、スクーリング(特に演習系)に行くたびに、皆も同じ思いで(志で)頑張っていると思えるだけで、レポートも試験も乗り切ってくることができました。社会人となり、家庭や仕事ももっての勉強は大変でしたが、入学したての頃に、先生に「忙しいことは理由にしない」という言葉をいつも心に留めて、自分なりに向き合って学習を進めてきました。同じような思いで頑張っている素晴らしい仲間や、知り合いもたくさんでき、今となれば「勉強」で得たこと以上に「人とのつながり」が大きな、この福祉大での成果だったように思います。何度、友人たちに助けられたことか……。力及ばず、1年留年してしまった時も、仲間たちは非常に温かく、そして私の応援団になってくれました。私は、その仲間たちと共に、社会で様々な事情や理由により、「弱者」となってしまう方々の「声」となり頑張っていきたいと思います。これから学ばれる皆さん、そして現在進行形で頑張っている皆さん、新しい出会い(新しい仲間、先生方、そして新しい自分)を大切に進んでいってください。そして、頑張ってください！努力や頑張りは裏切りません…。

・福祉現場はゆとりがないので、自分が学びたいことをしっかりと準備して指導者さんへの声掛けのタイミングを考えて質問はまとめておくとよい。

・皆さんほとんどの方が仕事と学業の両立が大変だと思います。しかし、一緒に学ぶ仲間が増えたり、自分が以前よりも物事を考える上で幅が広がったと感ずることが多々あります。3年次編入の方は忙しくあっという間に卒業してしまうでしょうが、学べる環境にあることに感謝しつつ、学生であることを満喫してください。

・正直1カ月の実習はとて長く感じます。ストレスからか体力も消耗します。体調管理だけはしっかり行ってください。

・大事なことは学ぶ姿勢だと思う。

・今までの仕事や経験とはまったく異なる分野へチャレンジされる方の不安は大きいと思います。しかし、素晴らしい体験となりますので、「当たって砕ける」くらいの気持ちで自分らしく臨んでいただけたらと思います。

・実習は限られた時間でどれだけ気づくことができるか大切な期間です。学ばせていただく姿勢を通わせれば必ず今後の仕事に役立つと思います。